

京都府南部におけるシジュウカラの分布密度と シジュウカラ語の解析

林 佐和

Sawa HAYASHI

京都府立南陽高等学校

【キーワード】テリトリー, 鳴き声, 6種類

1. はじめに

シジュウカラは繁殖期にそれぞれのテリトリーを持つことが知られている。その時にテリトリーを主張するために、さえずり合戦を行う。そして、さえずり合戦以外にもシジュウカラは鳴き声を使い分けてコミュニケーションをとっていると考えられている。

2. 目的

シジュウカラのテリトリーの分布密度が、住宅街と山里などでは違うと考えたため、さえずり合戦の地点を把握しテリトリーを調べる。その時に行われるさえずり合戦の時の鳴き声とその他の鳴き声の違いがあることを確認するため。

3. 方法

テリトリーの把握については繁殖期の4月に調査し、京都府南部の公園2ヶ所で調査を行った。テリトリーマッピングを使い、鳴き声による分布状況の確認を行った。

音声解析については、京都府南部におけるシジュウカラの鳴き声を録音し、その鳴き方やその時の状況から鳴き声を分析した。

	地点	外周	緑地面積
Site A: 住宅街	京都府 木津川 市	約 530m	約 11,100 m ²
Site B: 山里	京都府 宇治田 原町	約 210m	約 2,800 m ²

4. 結果

テリトリーマッピングでは、緑地面積の異なる Site A 及び Site B のいずれにも、シジュウカラが2ペア生息していた。図1の白点箇所でき

えずり合戦が行われており、その白点を結んだラインがテリトリーの境界線と考えることができる。

音声解析では、6種類の鳴き声を確認され、状況によって異なる鳴き声を発していることがわかった。

図1



表1

	鳴き声	状況
鳴き声1	ツピッ	オスとメスが近接
鳴き声2	ジュクジュク	天敵の存在が有り
鳴き声3	フィーフィー	
鳴き声4	ピーツピッ	
鳴き声5	パイパイパイ	天敵の存在有
鳴き声6	ツピツツピッ	さえずり合戦

5. 考察

テリトリーマッピングでは、調査サイトで生息地として利用可能な緑地面積が、4倍程度の違いがあるのにも関わらず、2ペアずつだったということは一定の範囲内に生息できる数が限られていると考えられる。住宅地と山里では、山里の方がテリトリーが狭いという結果となったが、これは山里の方ではその範囲以外の場所にも生息地として利用可能な自然があるためだと考えられる。

音声解析では、一定の範囲内に生息している者同士でコミュニケーションが取れると考え

要旨書式

る。その中で、雌雄のコミュニケーションとさえずり合戦、天敵の有無などで鳴き声が変わっていたため、鳴き声を状況によりより細かく変えている。その中で、人のように地域差や方言のようなものがあると考えた。

6. まとめ

住宅街と山里のいずれの調査サイトでもシジュウカラのつがい同士が鳴き声によりお互いのテリトリーを主張し、すみ分けを行っていた。その時の状況により、6種類以上の鳴き声を使い分け、仲間同士でコミュニケーションをとっていることがわかった。